

2. 珠文鏡について

珠文鏡

珠文鏡は小形倣製鏡のひとつで、内区に珠文が施されるものと呼ばれ、珠文の配置状況や形態などによって分類されている。^(註1) 出土する古墳は円墳が圧倒的に多く、前方後円墳であっても大型は少ない。^(註2) 埋葬施設では前半期は箱式石棺、後期は横穴式石室が多い。出土年代は4世紀～5世紀、6世紀にもおよび、従来の考え方である舶載鏡や大型倣製鏡に続く物ではなく、併行して存在している。^(註3) 出土状況や年代などから、珠文鏡を含む小形倣製鏡が単なる模倣・簡略化された鏡のなれの果てではなく、舶載鏡や大型倣製鏡に対して相対的劣位の権威的象徴であり、中心的な部族の首長のものというより、そこから下賜された小・中規模の首長のものと考えられている。^(註4)

鳥取県の珠文鏡

出土例は11例がある。^(註5)

内訳は古墳時代前期（4世紀代）6・古墳時代中期（5世紀代）2・不明3例。墳形は方墳、円墳それぞれ5例・方形周溝墓1例。埋葬施設は木棺直葬5・箱式石棺3・土器棺1・不明2例である。

形態的には、樋口氏の分類に従えばⅠ類4例・Ⅱ類4例・Ⅲ類2例・Ⅴ類1例で、Ⅰ類・Ⅱ類が多く、Ⅲ類・Ⅴ類は少ない。

Ⅰ類の出土例は、向山宮ノ峰14号・18号墳・国信1号墳で、大きさは6.2・5.9・7.65cm、珠文の数は29・27・19cm。Ⅱ類の出土例は、美和34号墳・向山宮ノ峰13号墳・猫山遺跡第1号墳墓・名土古墳の4例である。大きさは順番に7.5・7.2・4.8cm（残存径）・8.8cm、珠文の数は内側25＋外側31・内側21＋外側22（錆等で不明の箇所があり増減の可能性あり）・内側18＋外側23・内側18＋外側23・内側17＋外側23（錆等で増減の可能性あり）である。

大きさでは美和34号墳と向山宮ノ峰13号墳に近いが、珠文の数では幾らかの差があり、前者は珠文帯の外側に一重の櫛歯文帯、後者は二重の櫛歯文帯がめぐり、同範・同型鏡の可能性はない。また、猫山遺跡出土例と名土古墳出土例は、大きさは欠損のため比較できないが、珠文帯数や内側の櫛歯文帯と複数波文帯の配置に共通性が見られる。

特徴としては、

A：前方後円墳からの出土例がなく、方墳・木棺直葬と、円墳・箱式石棺が多いこと

B：舶載鏡や大型倣製鏡と共伴する例がほとんどなく、他の鏡に対しての従的埋葬ではなく副葬品の中でその鏡自体が中心的位置を占めること

C：前期・中期にまとまり、特に前期が多く、比較的古い時期に集中していること

などがあげられる。他地域に比べて方墳の割合が高く、古い時期に集中するということは、方墳が多い地域であり、方墳が古墳群の中で早い時期に築造されるという地域的特性もあると思われる。また、形態の地域的偏在は、配布・下賜の経路の違いを示すものと考えられる。

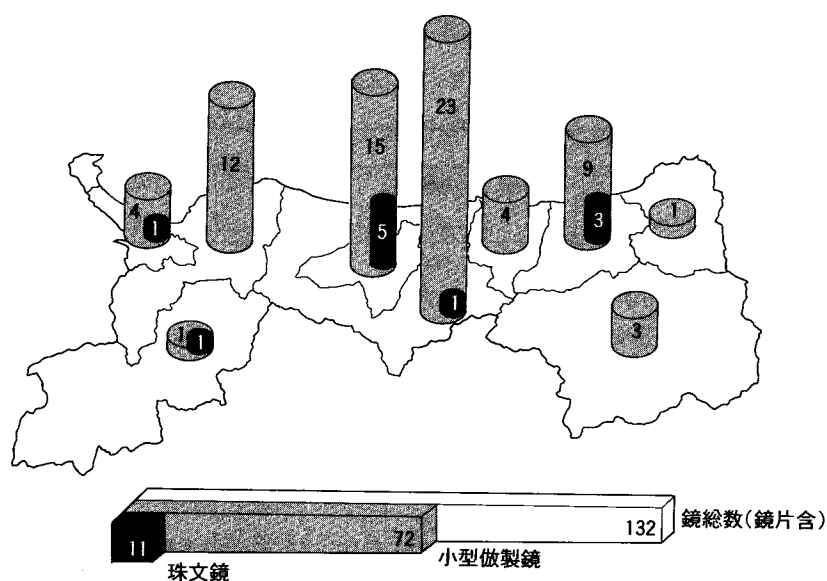
山田7号墳の珠文鏡

直径約7.8cm、厚さ約1mmでかなり薄く、珠文の数は12である。形態的に樋口氏の分類のⅠ類に属し、外区は鋸歯文・櫛目文、内区は圈文・一列の珠文・二本の重圈文である。

県内Ⅰ類例と比較すると、大きさでは国信1号墳に近いが、珠文数では一番少なく、相関性はうかがえない。時期は、共伴遺物から5世紀後半期と考えられ、県内の例の中では少し新しいが、鏡の伝世性からみて時期差はあまり問題にならない。墳形は円墳で、埋葬施設は木棺直葬であるから、鳥取県内の珠文鏡出土古墳のなかでも、ごく一般的な墳形と内部主体をもった例であるといえる。

山田7号墳の珠文鏡は地方の部族（連合）の中心的権力者などから下賜されたものとすることができ、被葬者の性格も「小・中規模の首長墓」と位置付けられる。

今後、他の小形倣製鏡出土古墳を含めた検討を進めることにより、地域的特質や階層性がより明らかになるものと思われる。



挿図211 鳥取県内鏡出土状況比較図

註1-1 『古鏡』 樋口隆康 新潮社 1983

—2 『明治大学人文科学研究所紀要』21号 「古墳時代倣製鏡の鏡式について」 小林三郎 1983
樋口氏はⅠ類（珠文帯1列）、Ⅱ類（珠文帯2列）、Ⅲ類（珠文帯3列以上）、Ⅳ類（珠文帯を乳で分割）、Ⅴ類（珠文帯を放射線で分割）、Ⅵ類（勾玉状珠文）とし、一方、小林氏はA型（珠文帯1列）、B型（珠文帯2列整然・不規則珠文）と分けている。

註2 『古代吉備』第9集 「真吉備町妙見1号墳出土の珠文鏡」 平井勝 1987

註3-1 註1-1に同じ。

—2 註2に同じ。

—3 『古代吉備』13集 「中・四国地方古墳出土素文・重圈文・珠文鏡—小形倣鏡の再検討1」 今井 堯 1991

註4 註3-3に同じ。

註5 「日本出土鏡調査カード（鳥取県）・鏡データベース」 鳥取県埋蔵文化財センター

挿表6 鳥取県内鏡出土一覧表

地区	市町村		(a)	(b)	(c)	地区	市町村		(a)	(b)	(c)	地区	市町村		(a)	(b)	(c)		
東部	鳥取市		14	9	3	中部	倉吉市		30	15	5	西部	米子市		8	4	1		
	岩美郡	岩美町					東伯郡	赤碕町	1				境港市						
		国府町	3	1				東郷町	8	5	1			西伯郡	会見町	3			
		福部村						東伯町	3	3					岸本町	1			
	八頭郡	河原町	2					泊村	1						西伯町				
		郡家町	3	3				大栄町							大山町	6	4		
		佐治村						羽合町	23	15					中山町				
		智頭町						北条町	2						名和町				
		八束町	1					三朝町							淀江町	13	8		
		船岡町	2				小 計		68	38	6			日野郡	江府町				
	川瀬町				(a) 鏡の総数 (b) 小形倣製鏡（13cm以上） (c) 珠文鏡								日南町		1	1	1		
	若桜町												日野町						
	気高郡	青谷町	5	3											溝口町				
		気高町	2	1															
		鹿野町												小 計		32	17	2	
小 計			32	17	3									合 計		132	72	11	

挿表7 鳥取県内出土珠文鏡一覧表

遺跡名	所在地	遺構	鏡の直径	年代	伴出土器	珠文の形態	備考
広岡88号墳	鳥取市船木	方墳 (木棺直葬)	7.5cm	古墳時代 前期	土師器 (鼓形器台)	Ⅲ類(中は途中とぎれる) (内18,中12,外19)	1989年発掘 鳥取市教育委員会
美和34号墳	鳥取市美和字湯谷 263-1他	方墳 (土器棺)	7.5cm	古墳時代 前期	土器棺	Ⅱ類 (内25,外31)	1993年発掘 鳥取市教育委員会
六部山21号墳	鳥取市久末字長谷 527の3	円墳 (箱式石棺)	6.7cm	古墳時代 前期	土師器 (鼓形器台)	Ⅲ類 (内,中,外)	1969年 鳥取県立博物館
倉吉市上神 字猫山	倉吉市上神	円墳 (箱式石棺)	不明	不明		V類	倉吉市史 (P175,179)
向山宮ノ峰 13号墳	倉吉市大字小田 字宮ノ峰	方墳 (木棺直葬)	7.2cm	古墳時代 前期		Ⅱ類 (内21+,外22+)	1989年発掘 倉吉市教育委員会
向山宮ノ峰 14号墳	倉吉市大字小田 字宮ノ峰	方墳 (木棺直葬)	6.2cm	古墳時代 前期		I類 (29)	1989年発掘 倉吉市教育委員会
向山宮ノ峰 18号墳	倉吉市大字小田 字宮ノ峰	方墳 (木棺直葬)	5.9cm	古墳時代 前期		I類 (27)	1989年発掘 倉吉市教育委員会
猫山遺跡 第1号墳墓	倉吉市上神字猫山	方形周溝墓 (不明)	4.8cm	古墳時代 中期	小型台付壺 周溝底部直上より	Ⅱ類 (内18,外23)	1984年発掘 周溝内より出土
国信神社境内 (伝)	東伯郡東郷町	不明	7.65cm	古墳時代		I類 (19)	東京国立博物館所蔵
新山 山田7号墳	米子市大字新山 宇山田	円墳 (木棺直葬)	7.8cm	古墳時代 中期	土師器(埴) 周溝内より出土	I類 (12)	1989年発掘
名土古墳	日野郡日南町 大字矢戸字名土	円墳 (箱式石棺)	8.85cm	古墳時代	脚付埴 高坏	Ⅱ類 (内17,外22又は23)	1907年 東京国立博物館所蔵

*年代については、出土した遺跡の報告書や鳥取県埋蔵文化財センター作成の「鏡データベース」等を参考にした。

*珠文の形態分類については、樋口隆康氏の『古鏡』においてのものを参考にした。

*上記の「鏡データベース」の中で大山町・国信1号墳出土の鏡が珠文鏡となっているが、実際は別の種類であり、東京国立博物館保管の国信神社の珠文鏡は東郷町出土であったため、表から前者を削除し、後者を加えた。